

2008年 第1回 IEEE 福岡支部理事会議事録案

日 時:平成19年2月9日(木)11:30~14:50

場 所:(財)九州システム情報技術研究所(ISIT)第1会議室

出席: 荒木, 井上, 興, 窪寺, 末次, 末吉, 砂川, 田口, 二宮, 匹田, 渡辺 (50音順,敬称略)

以上により、全役員数の過半数の出席を得た。

議 題:

1. 前回議事録の承認(興)ExC-2008-1-2

事前にメールで承認依頼を行っていたため、読み上げずに承認となった。

2. R10 Meeting 報告 (荒木) ExC-2008-1-3

荒木支部長より、Gujarat, Indiaで2/2~3に行われたR10ミーティングの報告が行われた。Janina Mazierska(IEEE Asia Pacific Director)のR10活動報告では、R10が全Regionでもっとも会員数の多い(67,157人)Regionであり、今後の地位の向上を目指していくべきと言うことや、インドがUSについて会員数2位になっていることが報告されている。(日本は4位)R10ではSection, Chapter, Student Branchともにその数が順調に伸びており、これまで同様の発展が期待できるとのことである。2007年の台南Section主催、台北開催のTENCONの報告があり、参加者が391名と事前の情報よりもかなり少なかったこと、Contributed Paperが443も有りながら、中国からのNo Showも多く、参加者数に不安があることなどが報告された。175名が台湾からの参加であるが、日本は55名(Paperは34)で2位であり、良く貢献している。会計的には収入\$214,168.00、支出\$182,642.00で、\$31,526.00の収益を出している。会場費は\$64,000と高い。TENCON2008はインド Hyderabadで11/18~21である。準備が遅れており、情報が遅いことへの不満があがっていたこと。サイトはwww.tencon2008.org。TENCON2009はシンガポール、11/24~27で、Suntec Singapore International Convention & Exhibition Centreが会場。すでにテクニカルトラックが示されている。(右図)TENCON2010についても、2009年のR10 Annual MeetingにはCall for Paperとまでは行かなくてもシンガポールと同じ準備状況を示すべきの意見が役員より出た。

荒木支部長が

TENCON2010についてブ

レゼンテーションを行い、

場所が福岡市国際会議場、

日付が11/21~24と決定し

たことを伝えた。すでに

General ChairとLocal

Arrangement Chairは決定

している旨も報告した。予

算については

TENCON2007が400名を

切ったことをふまえ、再見

直しが必要であるとのコメ

ントも支部長より付された。

Circuits and Systems

Electron Devices

Solid-State Circuits

Dielectrics and Electrical Insulation

Instrumentation and Measurement

Communications

Antennas and Propagation

Consumer Electronics

Magnetics

Nuclear and Plasma Sciences

Computer

Industrial Electronics

Professional Communication

Social Implications of Technology

Power & Energy

Geoscience and Remote Sensing Information Theory

Intelligent Transportation Systems

Signal Processing

Computational Intelligence

Engineering in Medicine and Biology

Robotics and Automation

Systems, Man, and Cybernetics

Electronic Design Automation

Nanotechnology

Components Packaging and Manufacturing

Industry Applications

Power Electronics

Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control

Broadcast Technology

Electromagnetic Compatibility

Microwave Theory and Techniques

Superconductivity

Education

Product Safety Engineering

Reliability

Technology Management

Aerospace Electronic Systems

Oceanic Engineering

Vehicular Technology

Control Systems

Lasers and Electro-Optics

Sensors

3. TENCON2010のGeneral Chairおよび開催場所決定について(興)ExC-2008-1-4

興幹事より、福岡市に開催場所が決定した旨。その関連情報が報告された。参加を350人にした場合の収支も報

告されて、節約することで収支の黒字化は可能であることも示された。二宮前支部長からはJapan Councilに協力を強く打診しておくように、確認がなされた。プログラムについては、九州にないChapterのTechnical Trackについても、Tokyo Chapterなどに個別打診していく必要性も指摘された。Call for paper締め切りについては、TENCON2008が3/31、TENCON2009が5/15であり、TENCON2009が2回目のシンガポールであることからこれをトレースすればよいと言う考えが支部長より示された。資金支払いを考えると、3月中に締め切り、5,6月で査読、7月に事前登録締め切りを行うと9月に入金が可能である。資金についてはR10から借りる(\$5000が上限で、その場合、\$5000赤字で返さなくても良い。収益が出たら30%還元)、Japan Councilから借りる(還元率などはJC、R10と協議が必要と思われる)など、対策が考えられる。福岡の援助は会議にしか入金されないが、これについてもコンベンションビューローとの協議が必要。会場の1階で別のワークショップを実施して費用分担する可能性も示された。以上をふまえ、今年の9月には1st Call for paperを出していくべきであろうとの結論になった。

4. 2008年支部活動状況及び会員数の報告(事務局、興)ExC-2007-1-5

会員については純増で800名が目前である。学生会員も増えている(160名)が、熊本大学が35名で構成要素としてはもっとも大きい。会計報告も示され、予算案も示された。議論の結果、50万、25万のセクション支援費をそれぞれ、TENCON2010準備委員会支援費と学生表彰支援費としてイランすることで合意した。前者は福岡も50万供出し、100万で準備委員会を発足させる。Chapter設立支援費は昨年並み20万、SB設立支援費は10万。2008年はSection Congress(ケベック)のために、60000円の支援費を計上した。現在の繰越金は240万近いが、08年予算案ではこれが160万にまで小さくなる予定である。

5. 福岡支部学生研究奨励賞受賞者の選考(窪寺)ExC-2007-1-6

窪寺SAC Chairより、採点結果が示され、議論の結果、42名と言う多数応募をふまえて、今年は14名を表彰対象者として決定した。結果は直ちにWebに報告され、受賞者にはメールで通知される。今年3月で卒業する学生の実績に反映させるためには、もう少し早い結論が必要ではないかとの意見も出された。受賞者増加に伴う費用の増大は予算案に反映させ、セクション支援費申請額も増額することとなった。

表彰状に載るIEEEのロゴは形が厳しく規定されており、注意が必要との指摘があった。ロゴはIEEEサイト(<http://www.ieee.org/web/publications/rights/logos.html>)から、ダウンロードできる。

6. Japan Council理事会報告(末次)ExC-2007-1-7

末次Treasurerより、報告。JC活動報告と会計報告を抜粋して説明された。JCでも繰り越しが大きくなっており、TENCON2010で思い切った支援をお願いしてはどうかと意見も出された。また、マイルストーン申請については荒木支部長から補足説明がなされた。

7. その他

(ア) 平成20年度電気関係学会九州支部連合会について(興)ExC-2007-1-8

興幹事より報告。分担金増額については認められ、予算に反映された。連合会役員は留任で決定。国際セッションの提案については、CSとLEOで提案することとなった。すでにAPでは連合会に直接提案されている模様である。招待講演者のワクについて費用拡大は期待できないのかという意見がなされた。連合会役員会で提案する見込み。

(イ) RAB Operations ManualでのSection運営について

前回議事録に従い、荒木支部長がPark R10directorに確認をとった結果が報告され、直ちに本部にAddendumを送付して承認依頼をすることで決定した。

(ウ) その他の話題

CAS Chair/Vice Chairなどの役員の改選が本年は必要である。また、Officer Confirmation Reportも2月中の

提出が必要であるとのこと。

8. 次回の理事会について
6月末の予定であるが、詳細は今後決定する。